日本大学薬学部校友会





17



薬学部上空より薬用植物園を望む

会 長 挨 拶

桜薬会会長 高仲 正

ておりますが、会員の皆様には如何御過ごしですか。 薬学科と生物薬学科の2学科からなる新薬学部も、 今年の4月からは船橋市習志野台の校舎に4年生から1年生まで全学年が揃い、来年3月には薬学部第1回の卒業生が出る運びとなりました。それにともない、平成4年4月より大学院前期(修士)課程を新設すべく、澤村学部長のもと、福田英臣教授(薬理学)を中心に準備が進められております。薬学教育を6年制にする話が出てから大分時期が立ちましたが、当時獣医師を6年制にした過程を参考にして、

大学4年に修士課程2年を加えて6年制にする方式が 話題に上がりました。この場合、大学院がないため

に対応できない大学があると言われていましたが、

本薬学部に大学院が設置されることは、この点の解

消にもなるとともに、更に、研究機能の充実にも寄

与するものと思われます。

今年は9月に入ってからも、真夏並の残暑が続い

昨年度より正式に加盟致しました工科系4学部校友会連絡会が8月29日に船橋市で開催されました。 当番学部である生産工学部をはじめ、理工学部、工学部、および薬学部校友会から正副会長等が参加し、大学からは各学部長等が出席して、各学部・校友会の現況、共通の話題について話合いがあり、校友と大学とのより強い結び付きを作るための校友会の役割が討議されました。 昨年末の日本大学校友会常任委員会での挨拶の中で、木下茂徳総長は、「私学と言うのは校友を大切にし、校友とともに大学が発展していかなければならないと思っております。アメリカの歴史ある有名な大学は、校友会が確立しており、校友会が大学の運営の中で大変大きな力を発揮しております。日本大学67万余の校友は、我々の大きな宝として、誇りになるべきものであり、この力を大学が一層の飛躍を遂げるために結集する必要があります。今世紀の末までの間に良くならなければ、次の21世紀には大変なことになると思います。どう見てもあと5年位で各大学間の優劣が決まるようで、潰れる大学は平成7年位がピークではないかという話も出ております。」と話しておられました。

薬学についてみますと、近年、薬剤師の地域医療への積極的な参加、医薬分業等の推進に伴って、臨床に密接した知識がより必要になると言われております。前会報でもお知らせしましたように、桜薬会では薬学部と共催で、奇数月の第2木曜日に日大会館において薬学卒後教育講座を開催しております。医、歯、薬学の各分野において積極的に活躍しておられる先生を講師にお招きして、急速に進歩している分野において、我々が知っておかねばならないこと、最新のトピック等を含めて講演して頂いておりますが、この講座を更に発展させるために、より多

目	次-								_
会長	長挨拶			高仲	正			• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	2
薬学	学部長に	:就任	して	澤村.	良二	•••••			3
南半	/球ム/	バラ ((ザンヒ	デア) (便り	山田:	節子		4
研究	昭室だる	こり							8
薬学	学部二 =	ュース						•••••	14
日本	大学創	山立 1	00周年	F記念	事業導	募金の	お願	٠٠٠٠٠ ا	16
日本	大学創	山立 1	00周年	F記念	事業導	募金報	告IV	•••••	16

村越善衛教授最終講義16
海外客員教授 Dr. I. K. Ho 氏来日17
習志野台コミュニティー18
会合予告23
薬学卒後教育講座の御案内23
事務局報告24
会費納入報告27

くの皆様方の参加と積極的な御提言をお願い致します。また、平成3年度日本大学薬学部学術講演会が来る11月6日(水)に薬学部校舎において開催されます。演者は、教職員、校友、大学院生、学部卒研生、薬学研究所研究員・研究生で、「本学の学術、技術並びに教育振興のため、平素の研究、技術開発あるいは調査結果を発表され、活発な討論の場をもち本講演会を有意義なものにしたい」との趣旨ですので、教育、研究面でご活躍の校友の皆様方は、演者として、また聴衆として、積極的に参加され、活発

なご討論をお願い致します。

先の木下総長の言葉にありましたように、「私立大学は校友を大切にし、校友とともに発展していくべきもの」と思います。これを校友の側から見れば「母校を愛し、その発展のために卒業生一人一人がその立場をもとに大いに貢献すべきもの」となるでしょう。校友の皆様方には、多忙な日々をお過ごしのことと存じますが、折に触れては薬学部の発展のために思いを巡らし、積極的な行動と建設的なご意見を事務局まで寄せられるようお願い申し上げます。

薬学部長に就任して

薬学部長 澤村良二

このたび、薬学部長に選ばれ平成3年4月1日に就任しました。昭和63年4月に新しく発足した薬学部も満3年を経ていよいよ完成年度を迎え、学生も新校舎に第1学年から第4学年まで揃って形が整って来ました。学部設置以来、設置計画に沿ってすべて順調に進行し、次の目標として大学院薬学研究科を開設するための諸準備に全力をあげる時期に来ております。

薬学部開設準備の時期から新校舎の建設その他の 諸事業を滞りなく進行させ、40年近い歴史をもつ日 本大学の薬学教育に新しい局面を開いた初代薬学部 長桐澤誠先生のご功績は多大なものであり、その成 果はいまや立派に実りつつあります。学部入学志願 者数も、薬剤師国家試験の成績も同僚大学にくらべ て見劣りしません。大学院薬学研究科修士課程の認 可申請の諸準備も予定通りに整備されて来ておりま す。

こうした経過の中で、これからの1~2年は桜薬会 及びわが薬学部にとって、いくつかの節目を迎える 年でもあります。まず第一には平成4年3月に薬学 部として第1回の学部卒業生を送り出すことで、こ れは新しく日本大学薬学部校友会となった桜薬会が 初めて薬学部出身者を迎えるということにもなるわ けです。余談ですが、このたび法令の改正がありま



して、卒業時に渡される証書の文面が一新されることになります。卒業生の皆さんが大学を卒業されるときに受けとられたのは「卒業証書」であり、その文面は薬学科所定の課程を修了したので薬学士(昭和31年卒業生は工学士)と稱することを認めるという趣旨のものでありました。来年薬学部の第1回卒業生からは卒業証書ではなく「学位記」となり、学士号(薬学)が

大学から授与されることになります。

話を本題にもどして、もう一つの大きな節目は日本大学理工学部(当時工学部)に薬学科が設置され最初の一年生が入学した昭和27年から数えて、来年が40年になることです。折角40周年ではあるし、ましてや永年の念願であった大学院がスタートするということになれば、誰しもけじめの記念行事を開催したいと思うのは自然のなり行きかと思います。私も同じ思いはあります。

ただ私の判断では、薬学部として華やかな記念式 典を挙げるほどゆとりのある時期には来ていないと 思います。ことに大学院の問題について修士課程の あと、博士課程開設のための施設・設備の拡充や教 員組織の整備に大きな負担ががかかります。また大 学院での教育研究で確かな実績を挙げ、内外の評価 を高めて一日も早く課程博士を誕生させて行く必要 があります。それには優秀な人材を育てるための奨 学金制度の整備などもはからなければなりません。 教職員一同の努力も必要でありますが、校友諸兄姉 の多大なご協力、ご援助も欠くことのできないもの であります。

たまたま最近私の手許に届いた薬学科 11 期生同窓会の招待状につぎの一文があります。

「(前文略) 母校の発展をともに喜び応援し、新たなる友情の輪を確立すべく卒業 25 周年記念同窓会を開催する事に致しました。(中略) 是非ご出席くださいますようお願い致します。」

校友の皆さんが母校に寄せる熱い気持に、常日頃深く感謝しているところであり、いずれの期の卒業生も同様のお考えをお持ちのことはよく承知した上でのお願いですが、こういう風に気持を言葉にまとめ文章に表現していただけることは大変ありがたいことであります。薬学部としてもう一息という重大

な時期に当たって、各期の同窓会も、校友会総会なども、是非熱い気持を顕わにして広く卒業生の皆さんに薬学部を激励するよう訴えていただきたいと思います。

最後にもう一つお願いを付け加えます。現在薬学部への受験生のうちには、薬学を志す志望が明確でない人やわが薬学部への入学意志の薄弱な人が多く、当面の入学制度の中では全く無駄な人に多くの合格通知を送り、手続きされるのを長期間空しく待つという羽目になります(どこの大学も同じことですが)。校友にはご子弟にできるだけ母校の受験を奨めていただき、また大学院進学の希望を持った優秀な方にも沢山来ていただいて、わが薬学部の充実発展にお力添えいただきたいということです。

限られた紙面で十分意を尽くしませんが、校友の 皆様の多面にわたる御協力、御支援を重ねてお願い 申し上げる次第です。

南半球ムバラ(ザンビア)便り

平成3年6月11日 海外青年協力隊 山田節子(31期生)

御無沙汰しています。無事に着きました。 MBALAに来てから2週間がたとうとしています。 飛行機で首都ルサカからカサマまで飛んで一泊、薬 剤師の岩村さん宅で泊まって次の日にかけて、ジェネラル・ホスピタルを見学してから、病院の車でムバラまできました。車でゆられること約2時間弱160km位あるそうです。道はとにかく簡単明瞭1本道しかありません。そして車の量も少ないので100km/Hは出しています。

ムバラについたのは、夕方6:30位でした。私の家で泊まってくれた平野さんに鍵の説明とかをうけましたが、前任者は、あまり物持ちでなかったようで家の中はガランとしてます。単に広いからかもしれませんが・・・・。全部のドアに鍵がついています。でも私が実際に使っているのは4本です。毎日ジャ

ラジャラ持ってまわるのは、はじめは慣れませんでしだが、今は慣れました。以後こんな広いところに住むことはまずないと思います。玄関の鍵は2つついています。そして自分でドアーチェーンもつけて万全です。1つオートロックになるのですが、鍵が行方不明なので、外に行くときは解除してから行かないとまずいのによく忘れてしまい、今日もオートロックのまま出て家に入る時サーバントのノアに中からあけてもらいました。とても変なつくりです。私、1人にはとっても広いです。でも日本では絶対こんな贅沢はできないから1つの経験でしょう・・・・。とにかくドアが多い。私はこんな大きい家をもらってますが、現地の人はマシュルームハウス(草の屋根に土の壁)に住んでいます。日本の4.5畳よりも狭い家です。本当に貧乏です。給料はワーカーで

1500K (約4000円) 位、主食のミルミルがそのうち1000K位かかるそうです。紙がとにかくない。エンピツもない。服もない。私達からみてどんなにつまらないものでも喜びます。ex ジュースの空かん穴のあいた靴など・・・。平野さんは自宅に戻りました。ここ2ヶ月は昼間は自分の家で、夜はこの家のスペアルームで寝ていたそうです。これからは大きな家に一人です。

ここでは私も重要人物でサーバント(ハウスボーイ)を雇っています。おこがましくも私がご主人様ということです。料理以外のことはだいたいやってもらっています。掃除、洗濯、買物(ときどき)、自転車の修理、畑仕事。私がいない時はサーバントといえども私の部屋には入れません。代々続いている人なので安心できます。ここの近くの住人の人も彼のことは知っていて信頼できるといっていました。身体障害者なのか私の肩ぐらいまでしか身長がありません。年令不詳です。顔は大人ですが背がとても小さいので若く見えますが、私の推定では30代後半くらいかと思います。毎日朝7:00に来てくれます(午前中)。家は私の家の裏です。

風景はとても美しいです。全体がなだらかな丘になっています。日の出、日の入りが地平線におちるのを見ることが可能です。首都ルサカ、現地訓練で行ったキトエは都会だったのに比べて実にのんびりしています。ここぞアフリカを思わせるのは、今は乾期に入ったこともあり、草は緑々しておらず、低木(上の方に枝がはり出している木が多い)がポッンポッンとたっているところです。舗装道路はメイ



ン道路1つしから りませ、赤土でよったがりにいません。 がすまずでするはいずりにのだった。 が道にかが道にかった。 が道にかったが道にかったりは1 ケ月ではきいかった。 してしまいました。ここで手に入る靴というのは CHINA製の靴が200K (約500円) 位です。私の家 はタウンと称する町中にあります。いわゆる中心街 で、銀行、郵便局、マーケット、役所もろもろがあ ります。といっても長さ100m程の間に点々とある のみです。私の家の前はガソリンスタンドと ZESCO (ZAMBIA ELECTRIC SUPPLY CORPO-RATION: 政府系の電気供給会社といったところ)、 そしてセキュリティー会社があります。治安は安全 で恵まれていると病院長にいわれました。ここザン ビアの家は、ほとんどといっていいほどバーク・ラー バーという鉄格子がはられています。もちろん私の 家もあります。バーク・ラバーがあってガラス戸が あって、網の戸があって、3重の窓です。でも何ヶ所 か網戸がやぶれていたし、鉄のバーク・ラバーが切 れていたりします。幸い前任者は大きな被害にはあ っていない様です。家のまわりには塀もなくポツン とたっているので、塀をつけたいと病院長にリクエ ストしたら、塀をつけると中で何をやっているかわ からないけど、塀がなければ、特に私の家の場合、ま わりから目立つからどろぼうも入りにくいといわれ ました。ということで、塀をつけるのはやめました。 でも、私のベッドルームの窓の外を人が通って行く ときの話声とかが聞こえて気になります。ある日風 通しを良くしようと思って窓を開けていたら、サー バントに注意されました。と言うのも、外から中が まる見えになってしまうこと、いくらバーク・ラバー があっても棒を突っ込んで物を盗ることは簡単だと いわれました。結構日本のときとちがった配慮が必 要のようです。(とにかく後進国には泥棒の多いの がつきもののようです)

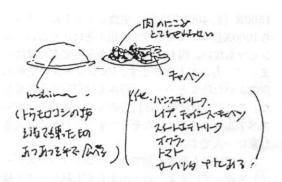
今は慣れましたが、夕方5時位から朝までは水がStopしてしまいます。これはつらいです。仕事が4時に終わって、買物をすませて急いで帰って先ずお風呂です。画期的なことに湯が出るのです。といっても、量は決まっていて、とてもバスタブいっぱいにたまるものではないのです。15cmもたまればOKです。このタイミングをのがすと、お風呂に入れません。そして食事の仕度にとりかかります。朝の内に水はポリ瓶にためているのですが、とても食べ終

わってから洗うのには足りず、食器はためて朝洗うことにしています。

料理は自炊してます。米は手に入ります。ここは カサマ米やムプルング米 (タンガニカ湖) の物が手 に入り、ルサカよりは恵まれてると思います。でも ぽろぽろしているし (チャーハン向け) もみがらは ついているし、石は入っているし・・・・。この前、ア ナロンで日本の白米を食べてこんなにおいしいもの なのかと感激しました。でも食べれないことはあり ませんというより味覚が慣れたのかもしれません。 ラッキーなことに冷蔵庫とタイマー付炊飯器があり ますので非常に助かります。「タイマー付の炊飯器」 これはとってもいいです。1人暮らし用で0.5cupで もたけます。私は0.75cup 夜炊いて夜と朝で食べて います。キッチンとリビングがはなれていて、ドア 3つ通らないと行けません。おまけにだだっ広いリ ビングに1人ぽつんと食べるのは惨めになります。 最悪は停電になったときです。今は調子が良いので すが、はじめのころは夕食時に停電になったので、 ろうそくをたてて食べていました。

ここはプロブレム (問題)を上げるときりがありません。気にしていたらダメです。幸い私は多少のコトでは気になりませんのでストレスもたまらず元気でやっています。田舎なので野菜はかんたんに手にはいると思っていましたが、ところがどっこい、トマト・玉ねぎ (ムラサキの小さいやつ)・キャベツ・ジャガイモ・サツマイモ・ピーナツ・米・バナナ・オレンジ、これくらいしかコンスタントに手に入りません。ニンジン・ピーマン・ナス・カボチャ・キュウリ・カリフラワーなどは160kmもはなれたカサマでやっと手にはいるという感じです。でも、種を持ってきたのでサーバントに作らせるつもりです。トマトを植えたのですが、1週間で70cmくらいに成長します。信じられない成長のはやさです。でも毎日見るのが楽しみです。

昼は mshima (シマ)を食べてます。私の家の前にシマ屋さんがあり、そこのおばちゃんと仲良くなりました。時々、病院のナースと一緒にシマ(トウモロコシの粉を湯で練ったもの一あつあつを手で食べる)を作って食べたりします。ここは肉が安いで



す。豚は皆食べませんのでここに来て食べてませ ん。ニワトリの方が高いです。ミンチというと牛肉 100%です。ハンバーグを作るとおいしい。こぶし 2つ分位の牛肉を煮込んだもので60K(約150円)で す。これだけ食べるとお腹いっぱいになります。今 はすっかり牛を食べるのにも慣れました。また、こ こはザンビアで唯一おいしい魚が食べられるところ です。タンガニカ湖で釣れるものです。カベンター という煮干に似たもの・ブロブカフィシュ・グッピー (熱帯魚ではありません)etc。先日30cm位のグッ ピーをバーベキューで食べて、頭をみそ煮にして食 べました。久々の魚でとてもおいしかったです。ザ ンビアの贅沢です。ここで、はじめてカベンターを 食べましたが、煮干に似ています。オイルをあたた めてカベンターを2つかみ程炒め、トマトと玉ねぎ を入れて塩で味付けします。実際自分でも作ってみ て、ごはんといっしょに食べましたが、なかなかい けます。ザンビアの料理はとてもかんたんで、味付 けは塩かヒリヒリかオイル、そしてトマトと玉ねぎ がつきものです。だいたい電気なぞ無いのでチャ コールという炭に火をつけて料理します。もちろん 火加減なんてなしです。だいたい外で調理し、まな いたというものもなく、自分の手のひらを広げて、 うまく材料をちっとも切れないナイフで切ります。

こちらは、お菓子というのがないこともあって、紅茶にとけきれないくらい砂糖をたくさん入れて飲みます。私は入れないで飲んで



いるのですが、どうして入れないの?といいます。 私の方がどうしてそんなに入れるの?といいたくな ります。

日本にいたときは、料理なぞあまりしたことが無かったけれども、今は生きて行くために、そして時間がたっぷりあるということで料理(と言えるかわかりませんが)をしてます、というより台所にいることが多いです。私の家においてあったキャベツ料理という本に、バナナのキャベツロールというのがあって、、無気味と思ったけど作ってみたら結構おいしくできました。材料とクッカーはあっても火加減ができないとプロブレムは色々ありますが、まあ今の所は無いなりにもどうにかしています。

マラリアの心配をしていましたが、高地 (1,600 m) ということもあり、今、乾期だからか、蚊はみかけません (私の家では、網戸もしてあるしね・・・)。クロロキンの予防薬も飲んでいるし、前任者もかかっていないというし、栄養もちゃんととっているので、まずは心配ないと思います。

コレラが今年はじめ、ムバラの北のムプルングを 発生地として大流行したということでしたが、これ はブッシュに住む人が汚い水を使用し、お腹をこわ したことによるものです。病院ではマラリア薬・ク ロロキン・ファンシダール・カモキシ・キニーネ・コ レラのテトラサイクリンの処方がこれでもかと言う くらいありますが、生活のレベルの低さ、栄養不足etcの原因が絡んでいるようです。油断はならないとは思いますが、水を沸かして飲んで、普通に生活していれば平気とのことですので、この点は御安心下さい。

ザンビアの中には73の部族があります。ここの 部族はマンブエと言うそうです。

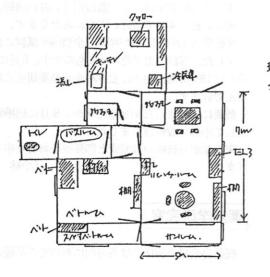
信じられますか?。それぞれ言葉もちがいます。マンブエというのは比較的マイナーな部族です。あいさつ「こんにちは」はムリウリ、「元気ですか」はニンゴです。そして、あと1つ覚えたのは、「お薬が切れていてない」はタクリ、ウムチといいます。やはり挨拶を現地語とかですると、とても喜んでくれます。

暑中お見舞い申し上げます。

ここザンビアは南半球にありますので、暑中見舞いどころではありません。一年中で一番寒い季節です。といっても日中は23℃位あり、シャツ1枚で充分です。初夏くらいです。

朝晩は冷えます。日本の冬と比べたら寒いうちにははいらないと思いますが、一度寝袋で寝たら暖かくて今はベッドの上に寝袋そして毛布を掛けて寝ています。

南半球ということで、南十字星が美しく見えます。



現たのりる マンショントレンドス マンショントレンドス

Ms. SETSUKU YAMADA

pharmacist.

% Mbala General Hospital
P.O.BOX 420019 Mbala ZAMBIA.

研究室だより

生薬学研究室

皆様には益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。 研究室の近況等について述べさせて頂きます。教室に紅一点で頑張っておられた黒崎副手は平成3年3月に退職され、現在名古屋にて幸せな新婚生活を送っておられます。4月より研究補助員として当教室出身の高橋正直(昭和62年卒)君と新卒の劉素延さんが研究生として勉強されています。また今春卒業され、東京都薬用植物園に勤務しておられる中島順一君が6~7月の2カ月間「生薬の品質評価について」の研究課題で研修にこられ、早くも学生時代を懐かしんでおられる様子でした。滝戸先生は9月26日~28日、海外学術交流提携校である韓国慶熙大学校メディカルセンター20周年記念国際シンポジウムにおいて特別講演を行う予定であり、滝戸先生を初め教室員一同元気に多忙な日々を過ごしております。

今年度は薬学部1期生となるべき卒業研究生が14名(男子8名、女子6名)が配属され、夏休みに入り卒研生の初仕事として恒例となっている漢方方剤の処方鑑定をほぼ終了し、9月上旬の伊吹山への卒研旅行の準備等を始めております。

8月上旬には生薬研究会の合宿もあり、OB17名を含む56名での合宿を福島県会津田島にて催し、キバナイカリソウやタニウツギ等内帯(裏日本系)の植物を多数見る事ができました。これも生薬研究室の良い伝統の一部と自負している次第です。

終わりになりましたが、桜薬会会員の皆様にはご 健勝とご発展をお祈り申し上げます。(北中 記)

微生物学研究室

暑い日が続いておりますが、桜薬会会員の皆様に

は各方面でお元気にご活躍のこととお喜び申し上げます。



日本大学理工学部薬学科謝恩会 於 赤坂プリンスホテル 平成3年3月20日

さて、4月より研究室員に増員がございました。 当研究室は他の研究室同様の構成となることが念願でしたが、増員により副手として、小山由美さん(H3臨床薬剤学研究室卒)が研究スタッフに加わりました。小山さんの明るさと元気さで、当研究室も若がえったようです。また、井口助手は4月1日付で専任講師に昇格され、実習を担当します。したがいまして当研究室は小山教授以下、井口講師、小山副手、私の4名で研究、実習にあたります。

卒研生は3月に10名が卒業し全員国家試験に合格しました。写真は謝恩会の時のものです。5月には、新たに16名が配属され、夏休みから卒業研究に取り組んでいます。

最後になりましたが私事ですが、8月に結婚致しまして小林に改姓致しました。

末筆ながら皆様の御健康と御発展をお祈り申し上 げます。 (小林 記)

薬剤学研究室

桜薬会会員の皆様には各方面においてご活躍のこ

とと御推察いたします。

私ども研究室員が、習志野台の薬学部に引っ越してはや一年半たちました。郊外の空気にも少しなれ、元気に頑張っております。窓からは遠く幕張新都心の高いビル、また近くには自衛隊のパラシュート演習が見えます。

さて、今年の三月末日をもって助手の富樫真奈美 さんが退職されました。十年間ご苦労さまでした。 お住まいは川口市です。

平成3年3月には当研究室より17名(男4名、女13名)全員がそろって卒業し、また国家試験にも合格いたしました。就職状況は病院13名、製薬会社4名であり、それぞれの分野で頑張っているようです。

平成3年度卒研生は15名 (男6名、女9名)です。 卒研旅行は7月末に1泊2日で軽井沢へ行ってまいりました。涼しい所で例年のようにゼミを開き、今年は「後輩たちに伝えたいことば」でした。今年も晴天にめぐまれ、花火大会も盛大にできました。この旅行には電通の取材があり、業界紙に当教室が写真入りで紹介されるそうです。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご健康と一層のご活躍をお祈り申し上げます。 (後藤 記)

薬事管理学研究室

桜薬会会員の皆様には益々のご清栄のこととお慶び申し上げます。

初めに研究室の近況をお知らせ致します。平成2年度卒研生は、3月に全員(男子4名、女子7名)卒業し、国家試験も全員合格を果たし、それぞれ企業、病院、薬局、薬剤師会で活躍しています。

平成3年度の卒研生は、男性1名、女性8名の合計9名で、女性が圧倒的に多くなりました。就職状況は順調で、企業希望者は早くも全員内定致しました。7月下旬には神奈川県葉山へ1泊2日で研修旅行をし、談話会、鎌倉見学、花火、クルージング等を通して親睦を深めました。8月からは研究室に通って卒業研究の準備を始めています。薬学部の第1回めの卒業生として、卒業研究、勉強ともに頑張っても

らいたいと思っております。

研究室員は、中村助教授と私(永喜)の2名で移動はありませんが、平成3年4月より約1カ月間、平成3年卒業の岩田可奈恵さんが研究室の手伝いをして下さいました。

研究室の活動は、医薬品の使用状況及び薬局の業 務内容等を中心とした諸研究を行っており、今後の 薬業界におけるニーズに応えることができますよう 励んでおります。

薬学部校舎に移動してから1年半が経ち、習志野の環境の良さを改めて感じております。卒業生の皆様のご来校を中村先生共、お待ち申し上げておりますので、どうぞお立ち寄り下さい。皆様の一層のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。 (永喜 記)

薬品化学研究室

桜薬会会員の皆様には各方面で益々ご活躍のこと とお慶び申し上げます。

初めに研究室の近況をお知らせ致します。平成3年度の卒業研究生は、男子5名、女子15名の20名で、女子の割合が多く、例年にもましてとてもにぎやかな卒業研究となっております。恒例によって、7月29日には軽井沢へ卒研研修旅行へ出かけ、就職や卒業研究テーマのセミナーを行い、教員・学生相互の親睦を深めました。現在は卒業研究や就職活動及び薬剤師国家試験の勉強に学生諸君は夏休みも返上し、がんばっております。また、我々教員も勢力的に研究、教育に当たっており、多忙な毎日となっております。

最後になりましたが、桜薬会会員の皆様の一層の 御健勝と御発展をお祈り致します。 (三宅 記)

薬品物理化学研究室

桜薬会会員の皆様には、各方面でお元気に御活躍 のこととお慶び申し上げます。

初めに当研究室の近況をお知らせ致します。

平成3年4月より佐藤孝俊教授は薬学部企画担当に 就任され、本部会議等多忙な毎日を送られています。 また、斎藤好廣先生は4月より薬学部に移籍され専 任講師へ昇格されました。さらに、4月より私、田口 博之(平成3年3月日大理工博士前期修了)が助手 として勤務いたしております。したがって、当研究 室のスタッフは佐藤孝俊教授、小川尚武助教授、斎 藤好廣専任講師、田口博之助手の4名です。

今年は薬学部の完成年度にあたり、その1回生にとなる本年度卒研生は18名(男性6名、女性12名)が配属されました。過去数年の特徴としまして、女性の割合が高くなっております。7月末には1泊2日で伊豆熱川へ研修旅行に出かけて参りました。幸いにも天候に恵まれ、バナナ・ワニ園、温泉、花火大会、懇親会…etcと親睦を深めて参りました。本年度の卒研生もエネルギッシュなメンバーですので卒業研究、国家試験に向けて頑張ってくれるものと研究室では期待しております。

平成4年4月の大学院開設に向け、佐藤孝俊教授 をはじめ研究室スタッフ一同、更に一層の教育、研 究面での充実に張り切って取り組んでおります。

早いもので駿河台を離れ、2年が過ぎようとして いますが、ようやく習志野での薬学部の生活にも馴れ落ち着いてまいりました。近くにお越しの際はぜ ひ御来校下さいますようお待ち申し上げておりま す。

最後に、桜薬会会員の皆様の御健康と更に一層の 御活躍をお祈り致します。 (田口 記)

薬品分析学研究室

桜薬会会員の皆様には多方面で益々御活躍のこととお喜び申し上げます。平成3年度を迎えていよいよ薬学部も完成年度となり、当研究室でも椛澤教授をはじめ教室員一同元気に頑張っております。椛澤教授は4月から薬学科主任に任じられ、忙しい毎日を過ごしています。

本年度は卒業研究生17名(男性6名、女性11名)が配属になりました。これから勉学はもとより、就

職活動、卒業研究と学生生活仕上げの時期に入り、 忙しくなります。9月には椛澤先生の故郷新潟への 卒研旅行が計画されており、大いに鋭気を養ってく る予定です。薬学部1期生として活躍が期待されま、 すので、会員の皆様の暖かい御指導を賜わりますよ うお願い申し上げます。

去る7月6日(土)には、恒例となりました研究室同窓会がお茶の水のホテルじゅらくで開催され、山本先生はじめ多数の御参加を頂き、ご招待にあずかった学生にいろいろアドバイスを頂戴いたしました。おかげさまで同窓会も今年で16回目と順調に回を重ねております。

また、3年生以下で組織されている分析研究会も本年は7月28日~30日に猪苗代で夏合宿を行い、互いの親睦を深めてきました。11月の桜薬祭での研究発表をめざして頑張ってくれることを期待しています。

末筆ながら皆様の御健勝と一層の御発展をお祈り 致します。 (四宮 記)

薬化学研究室

桜薬会会員の皆様には、益々、各方面でご活躍の こととご推察いたします。また日頃より会の諸行事 へのご協力などに深く感謝しております。

念願の学部開設から4年目に入り、薬学部学生も4学年まで揃い、ようやく学部として完成年度を迎え、薬学の特徴づけに機能を発揮できるようになりました。先ずお知らせしなければならないのは、教室員一同、元気に頑張っておりますが、本年4月より高畠助手が専任講師に、また長谷川弓子副手は助手に昇格したことで、益々教育・研究に奮励努力することになります。また、黒柳、里見両名誉教授はお二人ともお変わりなく、お元気にお過ごしのご様子です。

今年の第1回薬学部卒研生は18名 (男子5名、女子13名)で、夏休みの7月末日には1泊2日の研修旅行に出かけ、テニス、旧跡名勝巡り、彫刻の森見学そして懇親会等で親睦を深めてまいりました。ビ

ックリしたのは、消費した洋酒の量から飲兵衛なのか、超マジメなのか比較の問題なので結論は出ませんが……?! このような卒研生ですから実験に、演習に超マジメに取り組み多大な成果を期待しております。それぞれ既に就職先は内定しております。当研究室には9月2日に卒研生を登校させて、次週から実験希望者が研究テーマによって実験をし、演習希望者は文献調査のテーマを与えて9月末日に調査結果を報告するとの方針を固め、研究成果をあげようとしています。それに答えて学生も夏期休暇中は卒業と国家試験に向かって懸命に勉強しているところでしょう。

最近、"希望の配属先と違う"、"やりがいがない"などの現実とのギャップに気づいて、大学卒業後、企業また病院薬局に就職したが、2年で辞め、心機一転、新たな職場で再出発する者たち20名中1人ないし2人の割合で増えています。このような転職を希望する"第二新卒"者に対して、この時期から秋にかけて、企業の第二新卒者の採用活動が熱をおびる様子です。

面接も1回あたり2時間かけて、なぜ辞めたのか、 就職先で何をやりたいのか徹底的に聞き、目的意識 がしっかりしているか多問信行である。

末筆ながら皆様の御健康と御発展をお祈り申し上 げます。 (宮尾 記)

臨床薬剤学研究室

あと一月もすると、街の輪郭が葡萄色に変わる季節となって参ります。夏から秋への季節の移り変わりの中、会員の皆様には益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、我が臨床薬剤学教室は、本年4月より新たに2名の先生をお迎えし、より強力な陣容で活動しています。まず、東京大学薬学部より、花野学先生をお迎え致しました(医薬品管理学担当教授)。先生は、多年にわたり教授として東京大学薬学部製剤学講座を主宰され、在任中は薬学部長、また各種薬剤学関連学会の要職を歴任されるなど、生物薬剤学の

研究において世界をリードする業績を上げておられます。次に、本教室助手に大野修司先生を星薬科大学よりお迎え致しました。大野先生は、本教室(理工学部薬学科放射化学教室)の昭和61年の卒業生で、その後星薬科大学大学院へ進学され、本年3月薬学博士の学位を取得された若手のホープでいらっしゃいます。他にも、九川助手の専任講師への昇格、研究補助員として本年3月卒業の泉硬介君の採用など、活気に満ちた研究体制になっています。

青木正忠教授は、本年7月1日より3か月間アメリカ合衆国のタフト大学へ、癌細胞の薬剤耐性獲得に関する研究のため留学されています。青木先生のお帰りになる秋には4年生の卒研も本格的になり、研究室としても益々油が乗ってくることでしょう。末筆になりましたが、同窓生の皆様の今後の御発展をお祈り致します。 (九川 記)

衛生化学研究室

衛生化学研究室はこの4月より澤村教授、静岡県立大学からいらっしゃった手塚助教授、待井弘江さんと立川の4人の世帯となりました。澤村先生は学部長として更にお忙しい日々をお送られています。

比較的涼しかった8月が過ぎ9月になった途端残暑がぶり返し、行く夏を惜しむ気持ちは蒸発してしまいそうです。そしてこの残暑と共に卒業研究実験が始まりました。本年度の卒研生は薬学部第一期となる女10名、男7名の計17人です。それぞれのテーマも大きく分けて①魚類での化学物質の取り込みと排泄、②哺乳動物での金属の作用、③蛋白分解酵素の分離精製、④塩素剤によるポリオウイルスの不活化、そして⑤水中微量成分と塩素との反応、と決まりスタートしたばかりです。少しでも多くの成果を挙げるよう皆で頑張りたいと思っています。9月中旬には下田へ卒研旅行に出かけます。どんな騒ぎになるか楽しみです。

卒業生は上記のテーマをご覧になって「こんな事を始めたのか」、または「まだ続いているのか」とその卒業年次に応じての感慨をお持ちになるかと思い

ます。カッパ会のような機会を活かして現役の卒研生と卒業生とがそれぞれのテーマを通じて交換できたら楽しいことだろうと考えております。

末筆ながら衛生化学卒業生の皆様のご健勝とご活 躍をお祈り致しております。 (立川 記)

機能形態学研究室

桜薬会会員の皆様には、各方面でお元気にご活躍 のこととお慶び申し上げます。



機能形態学研究室の近況をお知らせします。

先ずお知らせすることはスタッフが4名に回復し たことです。昨年9月に退職された犬童しのぶ副手 のポストは空席のままでしたが、後任として当研究 室で卒研をとった宮原優子さんが4月から加わって くれました。持ち前の美貌に体力と知性を兼ね備え た、まさに九州女児!? 実習に研究にと大活躍して くれています。また木澤助手も4月から専任講師に 昇格され、さっそく臨床生理の講義やら軟式テニス の顧問やらと大忙しです。村上教授は4月から学部 の重鎮である学務担当に成られました。今年で完成 年度を迎える薬学部の今後の青写真を作成すべく、 粉骨砕身努力されています。毎日のように会議に追 われ、端から見ているとお気の毒です。序でながら 筆者は、平成3年度の日本大学海外派遣研究員(長 期)として1年間の留学の機会を与えられました。 この様な機会を与えられたことに感謝すると同時 に、新生薬学部としての第1号なので責任の重さを 痛感しております。

さて今年度の卒研生として鈴木美加子、滝本桂子、 蛸島好恵の3名の美女が配属になりました。文字通 り少数精鋭で、勉強に遊びにとハッスルしています。 7月29日・30日の1泊2日で伊豆長岡へ卒研旅行に 行ってまいりました。昼間は土砂降りにもめげずテニスやゴルフ、夜は研修と称する宴会と、逞しく遊 んで参りました。写真は宴会前のスナップで、前列 4名が先生方、後列3名が卒研生です。マンツーマン 以上のこまやかな教育が約束されています。3名と も既に就職は内定し、これから研究に、国家試験に と腕捲りをしているところです。

最後に、桜薬会会員の皆様の一層の御健勝と御発 展をお祈りします。 (草間 記)

生化学研究室

毎日暑い日が続きますが、同窓生の皆様におかれましては益々ご健勝にてご活躍の事とお慶び申し上げます。

さて、大変遅くなりましたが本研究室の近況などこの紙面をお借り致しましてご紹介致します。 本年3月、櫛田親弘副手が退職され、後任に大仲広美(筑波大学M卒)が着任致しました。また、目鳥幸一氏(本学54年卒、日本遺伝子工学株式会社)、並びに、片山大策氏(日本遺伝子工学株式会社)の両名が薬学研究所研究員としておいでになり研究を開始されました。

また、高橋教授は生物薬学科主任教授(平成3年4月付)に就任され、研究員一同益々、教育研究に張り切っております。

以上、甚々簡単ですが御報告致します。

(小池 記)

薬理学研究室

桜薬会会員の皆様には各方面でお元気にご活躍の こととお慶び申し上げます。 まず、村越先生の退任についてご報告いたします。 前号でご報告いたしましたように村越先生は1月8日付で定年退任されましたが、退任されるにあたり、2月1日付で日本大学名誉教授の称号が贈られました。また、本号の別項に記載されているとおり、2月23日には薬学部校舎で最終講義が行われ、学生・学内教職員のほか同窓生など学外からも多くの方々が聴講に訪れました。一方、3月30日にはホテルセンチュリーHYATTで退任記念パーティーが行われ、400名以上の出席者が村越先生のご苦労をねぎらいました。

平成2年度に当研究室に配属された20名の学生は 理工学部薬学科最後の卒業生として全員揃って卒業 いたしました。卒業後の進路は就職・進学と様々で すが、現在はそれぞれが新しい環境でがんばってお ります。本年度は14名の学生が配属となりました。 本格的に実験を開始するのは9月からですが、7月 29-31日には北軽井沢へ研修旅行に出かけ親睦を 深めました。

3月末には一昨年9月より米国へ留学しておりました牧村専任講師が帰国され、伊藤助手は4月1日付で専任講師に昇格されました。福田教授は薬学部で初めての海外客員教授(ミシシッピ州立大学医学センター、薬理・毒性学研究室I.K.HO教授、期間:5月31日-6月14日)招へいのお世話をされるなど相変わらず多忙な日々を過ごしておられます。31年間教鞭をとられた村越先生の退任でひとつの節目を迎えた当研究室ですが、現在は福田教授を中心に教室員一同、より一層の充実・発展を念じて教育にまた研究に取り組んでおります。

末筆ながら、会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。 (石毛 記)

臨床生化学研究室

桜薬会会員の皆様方におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。

臨床生化学研究室は、昨年20名の卒業研究生を迎 え発足し、卒業生全員が薬剤師国家試験に合格いた

しました。また就職状況は、製薬企業8人、病院3 人、調剤薬局6人、および公務員、病院研修生、大 学院進学が各1名と全員が各々の勤務地で頑張てい ます。研究室の長谷川、永松、山中の各先生方も研 究に教育に励んでおられます。卒業生の加古さんが 6月末まで臨時雇として実習のお手伝いをしてくだ さいましたが、7月から調剤薬局に勤務されていま す。今年度の卒研生は19名のうち男性3名と女性王 国です。彼らの就職状況は企業希望の学生は内定を いただいているようです。また病院等は夏休みあけ から就職活動が例年どおり始まります。卒業研究は 7月の期末試験終了後から徐々に着手しています。 今年のテーマはオピオイドレセプターのフォトアフ ィニティーラベルならびにアスピリンの肝毒性発現 機構およびカルバメート系農薬の代謝に関する研 究、ヒ素の遺伝子障害性についてで、研究を始めて います。

9月には、恒例の卒研研修旅行のため塩原の研修所に行く予定です。

最後になりましたが、皆様方の一層のご活躍をお 祈り申し上げます。 (古川 記)

会員動向

○会 員 数 (平成3年4月1日現在)

			名	前年	F比
	正会員	7	,241	+2	227
	学生会員		871	**	59
	特別会員	現	56	+	2
		元	21	+	1
	準 会 員		0		0
	会 員		0		0
-	A 31	INC.	100	loni.	

合 計 8,189 +171

<総会資料抜粋>

薬学部ニュース

教職員紹介

臨床薬剤学担当

教 授 花 野 学



本年3月東京大学を定年退職し4月に本学薬学部教授に任ぜられました。講義は4年生に後藤博子先生と共に医薬品管理学を担当しました。所属する講座は青木正忠教授のおられる臨床薬剤学です。 私の専門は製剤学で薬剤の設計、製造、品質評価に関わる広い分野にわたりますが、この10年は特に薬物の体内動態の速度論(ファーマコキネティックス)による薬物動態と作用の動物から人の、また正常から病体、さらには試験管から生体、の予測法の開発と発展を目標にしてきました。

私は昭和24年徳島大学工学部に入学し、26年製薬学科に進学し、昭和28年薬学部を卒業しました。 卒研は現大阪薬科大学学長の久保田晴壽先生のもとで薬品製造化学教室で有機合成化学を専攻しました。東京大学には大学院の修士課程の入学試験を受けて入りました。製剤学が何であるかは全く知らず、ただ徳島高専(大学の前身)の先輩に製剤技術者が多かったのに引かれて専攻しました。東大では故野上壽先生のご薫陶を受けました。野上先生の御人格もあり、また製剤学教室が誕生間もないせいもあって、自由の雰囲気にあふれた中で研究ができました。学位論文のテーマは薬物の経皮吸収であります。今でこそ流行の研究ですが当時は数少ないものでありました。私はここで経皮吸収を速度論的に取扱い、極く単純化した皮膚内拡散モデルを提出し ました。このような取扱ができたのは工学部の教育 のおかげだと思います。

強固な伝統の世界で育たなかったので、独善的な 思考の悪い癖があります。早速この癖は医薬品管理 学の講義内容にでたようで、反省しています。本学 の大学院の発足とその発展に期待しております。ど うかよろしくご鞭撻のほどお願い申し上げます。

鑑識化学担当



本年4月より薬学部生物薬学科衛生化学研究室に 勤務しております。どうぞよろしくお願いいたしま す。

私は、昭和41年に静岡薬科大学(現静岡県立大学 薬学部)を卒業し、引き続いて大学院修士課程を修 了後同大学放射薬品学教室助手として勤務以来、本 年3月まで静岡を離れることなく過ごしてきました。 その間、汚染河川水等の放射線浄化、癌細胞の核酸 (主としてRNA) 生合成経路の生化学的研究、代謝 拮抗制癌剤 5-フルオロウラシルの作用増強に関す る研究(この研究成果により学位取得)、必須微量金 属の一つである3価クロムの細胞増殖に及ぼす作用 等の研究に従事してきました。また、昭和61年5月 から1年間は米国デトロイト市にあるミシガン癌研 究所で、大腸菌リボソームにおけるタンパク生合成 機構、主としてアミノアシルt-RNAの3'-末端構 造とリボソームタンパクとの相互作用に関する研究 を行ってきました。このたび、衛生化学研究室・澤 村良二先生のお招きにより本学にお世話になること になり、さっそく鑑識化学の講義および衛生化学実

習を行ない、何とか無事に試験を終了したところです。

薬学部卒業生は、薬剤師国家試験をクリアしなければならないことは当然のことですが、来年4月には本学に大学院修士課程の設置が予定されており、その実現に向けて澤村良二新薬学部長もたいへん尽力されています。このような時期に本学の一員に加えられ、教育と研究とをより一層充実させるべき責務の重大さを痛感しています。

桜薬会会員の皆様の暖かい御支援と御指導、御鞭 撻を賜りますようお願い申し上げます。

免疫学担当

助教授 永 松 國 助



平成2年3月末日をもちまして18年間勤務しておりました国立衛生試験所を退職し、4月から本学薬学部臨床生化学研究室に勤務しております。免疫学(4年前期)と生化学実習Ⅱ(3年前期)を担当しております。

私は、福岡大学薬学部を卒業後国立衛生試験所において、放射性医薬品に関する研究(ラジオイムノアッセイ)や化学物質の代謝と毒性に関する研究を行ってまいりました。ここ5~6年は麻薬類の依存性に関する研究の一部としてモルヒネの代謝と毒性発現に関する研究、オピオイドレセプターに関する研究を行っております。

最近の生化学や薬理の研究においては分析機器・技術の進歩がめざましく、薬物の作用機序や化学物質の毒性発現機序が分子レベルで解明されつつあります。薬学部は研究設備もととのっており、申し分のない研究環境にあります。この充実した研究環境のもとで新設の薬学部に勤務でき、光栄に思っております。

これからは薬学部の発展を祈って、学生の教育、 指導に全力を注いでいく所存でございます。桜薬会 会員の皆様からの御指導御鞭撻のほどよろしくお願 い申し上げます。

事務局長事務取扱





昨年11月、完成年度を迎える薬学部へ赴任して早や8ヵ月の歳月が過ぎました。新しい学部で新しい 経験をするなかで、今までの学部とちがう諸々のことを考え、戸惑いながら新設学部としての薬学部のあり方、ゆき方等私なりに模索しているところです。

草創期は何の場合でも色々大変なことが多い訳ですが、反面新しいものを創り出す喜びそして使命観等希望に燃えた一面もあるものです。私は、このめぐり合わせを大切にしそこに生きがいをもつことが最も大事なことだと思っています。大学の歴史を繙くまでもなく、創設期には学生、教職員が物事を創造してゆく気概と情熱をもち、一体となって進んでゆく姿が見受けられ、時代がちがっていても共感を得られるのは、まさに「草創期の進取の気風」だろうと思います。私は、このことを新しい薬学部を造ってゆく原点と考え、学生、教職員が一体となって、教育、研究條件の整備改善に向かって努力し続けなければならないと、思いを新たにしているところです。

来年3月には、愈々薬学部として卒業生を世に送り出すことになります。卒業生の一人ひとりが、きっと母校への愛着と、開かれた学園としての思いをもって、勇躍社会へ飛翔してゆくことを信じています。最後になりましたが、全国各地のあるいは外国の地にて日夜ご活躍されている約7000人校友の皆様方の一層のご発展をお祈りし併せてわが母校への限りなきご協力を賜わりますようお願い申し上げご挨拶といたします。

日本大学創立100周年記念事業募金のお願い

募金期間が平成4年5月31日までに変更されました。割当額達成のため諸兄姉の協力をお願い致します。

会員の皆様には、すでに会報11~16号でご案内いたしました通り、母校日本大学は明治22年10月4日 開校されて以来、100年を経過しました。一昨年10月4日には天皇、皇后両陛下ご臨席のもとに盛大に記念式典が執り行われました。

母校では今回の慶事に100億円の記念事業を計画し、校友会に15億円の協力を求めて参りました。そのうち薬学部校友会(桜薬会)には3,500万円が割り当てられました。校友父兄と校友職員には別途割り当てが行われましたので、この3,500万円は父兄・教職員を除いた校友の募金で充当しなければなりません。皆様の協力をお願い致します。

1. 振込方法

会報13号に同封いたしました桜薬会発行の振込用紙により協和銀行北習志野支店(普通口座419419)に振り込んでください。振込用紙がないようでしたら事務局までお知らせください。郵便局の振替口座を利用される場合は裏面通信欄に「100周年記念募金」と明記してください。

2. 募金額について

1万円単位で受け付けます。

- 3. 募金期間 昭和63年6月1日~平成4年5月31日
- 4. 免税の取り扱いについて 大学発行の領収書と証明書により、募金額から 1万円を控除した額が所得から控除されます。
- 5. その他

募金についての質疑は桜薬会事務局にお問い合 わせ下さい。

創立100周年記念募金報告(IV)

募金割当額 3,500万円 募金総額 1,575万円 (平成3年8月31日現在)

31 斉藤美智子・山崎俊子・吉沢秀明、33 宮川素子、36 渋江洋介・富田貞子、37 上田民恵・田村玉・宮川孝38 石澤章悟・久保田昂・高松田鶴子、40 土川利昭41 永石寿治、54 小川耕造・佐藤芳久、52 安川阿良里、59 岸田朋子、60 岡本裕子 以上 19 名累計 207 名

村越善衛教授最終講義

31年の長きにわたり本学で教鞭をとられ、1月8日付で退任された村越教授の最終講義が2月23日(土)薬学部511教室で行われました。最終講義に先立ち桐澤前学部長より挨拶ならびに村越教授の略歴紹介がありました。題目は「私の研究のさすらい」で、これまでのご研究の中から駆虫薬の作用機序およびモルヒネを中心にした薬物依存性の発現機構に

ついて講義をされました。駆虫薬の作用機序についてはブタ蛔虫の嫌気的炭水化物代謝経路の酵素系に対するビチオノールの作用について、フマル酸還元酵素への作用を中心にこれまでの研究の流れを概説されました。薬物依存性発現機構に関しては、モルモット回腸やマウス輸精管などの末梢標品を用い電気刺激による収縮反応を指標として、また中枢では

ラット脳内に微小電極を刺入して海馬の錐体細胞を刺激し、扁桃核から導出される誘発電位や海馬切片でのポピュレーションスパイクを指標としてモルヒネ耐性と禁断のメカニズムについて話されました。それに引き続き、モルヒネなどの麻薬性鎮痛薬作用発現の最も重要な生体側の部分として、多くの薬理学者が注目している麻薬性鎮痛薬の受容体すなわちオピオイド受容体について、その作用の違いや受容体結合実験などから μ 、 δ 、 κ に分類されている事



などを概説されました。その後κ受容体についての データを中心に、調べた脊椎動物のオピオイド受容 体のうち食用ガエルの脳に最も多く存在し、受容体 精製に用いる界面活性剤にも安定である事から部分 精製を行い、受容体の分子量を推定し約40万であっ たこと、哺乳類ではモルモット小脳にκ受容体の存 在比が高いことなどの知見を示されました。またκ 受容体と二次情報伝達系との共役についても言及さ れました。長い間の研究の成果をゆっくりと分かり やすく話され、学内外から集まった166名の聴衆に 深い感銘を与えました。最終講義終了後、村越先生 最後の卒論生となった36回生の卒論生代表亀田浩 子さんより花束が贈呈されました。その後場所を会 議室に移し、村越先生は学外から来られた方々と歓 談されました。短い間ではありましたが、多くの 方々がコーヒーを飲みながら村越先生とひとときを 過ごされ、長年のご苦労をねぎらいました。この日 のために多くの方々が持ってきてくださった花束の 美しさが印象的でした。 (伊藤記)

海外客員教授 Dr. I. K. Ho氏来日

去る5月31日から6月15日までの2週間、ミシシッピー州立大学薬理学・毒性学教室主任 I. K. Ho博士が日本大学海外客員教授として招聘されました。教授は同大学の医学部生や歯学部生に薬理学や毒性学を教授するほかアメリカ内での多くのコミティーのオーガナイザーとしてご活躍です。教授は、かつての日本の教育を受けた御両親を持ち、また叔父様が慶應大学の助教授であったことなどから、大変親日家であり、日本からも多くの研究者が同教授の下へ留学しました。本学薬学関係者では桜薬会の高仲正会長はじめ、本学伊藤芳久専任講師、薬学科第21回卒業生石塚善久氏と私牧村が同研究室に長期出張いたしております。

滞在中教授は、薬学部において6月6日に教職員 対象に「Contemporary drug abuse」という題 で、また薬理学の講義として3年生と教職員対象には11日と14日に「鎮静・催眠薬の薬理」、「麻薬性 鎮痛薬の薬理」という題で講演されました。いずれ の講義もアメリカでの講義同様にスライドを用い、



特にゆっくりとした英語で分かりやすく話して下さいました。また、理学部で化学を学んだ教授は化学にも精通しており、学生対象には化学系の人たちにも興味を持っていただけるようにと配慮され、薬の構造と活性との相関関係をまじえた基礎から臨床応用まで、広範囲にわたってきめ細かい講義をされました。講義終了後廊下で出あった一女子学生の"サンキュー"という挨拶に戸惑いと恥じらいを見せながら「わたしは学生に講義するのが好きだよ……」

とつぶやかれたのが印象的でした。

また、6月1日には薬学部教授と懇談、3日には総長表敬訪問、翌4日には日本薬理学会関東部会(会長: 歯学部小林雅文教授)での招待講演、10日には歯学部教職員及び大学院生を対象にした講演をされるなど多忙な日々を過ごされ、薬学部のみならず本学の教育・研究にご尽力下さいました。

(薬理学研究室 牧村瑞恵記)

習志野台コミュニティー

「村越善衛教授退任 記念パーティー」報告

薬物同窓会会長新村宗敏

平成3年3月30日(土)午後6時より、ホテル「センチュリーHYATT」(桃山の間)において「村越善衛教授退任記念パーティー」を開催しました。出席者485名、記念品拠出者216名という多数の御参会を頂き、盛大な記念パーティーを挙行することができました。これは一重に皆様方の御協力によるものと厚く御礼申し上げます。



記念パーティーは増田英昭氏(15期生)の司会により、薬物同窓会会長として私の開会挨拶、薬理学教室福田英臣教授による村越善衛先生の御経歴紹介に続いて、薬学部長桐澤誠教授、桜薬会会長高仲正

氏(2期生)並びに薬物学教室初代教授小澤光先生に それぞれ御祝辞を頂戴したのち、渡辺俊男先生(元、 生理解剖学担当)の乾杯の御発声により開宴しまし た。「四葩の会」石塚秀楡[石塚(山本)起久子(6 期生)]らによる箏の演奏を聞きながら歓談の途中、 村越先生に感謝の意をこめ記念品と花束の贈呈をし ました。その後、教え子代表高橋洋行氏(6期生)の 謝辞に続いて村越先生の挨拶があり閉幕しました。

皆様方の御芳情に重ねてお礼を申し上げ、併せて 村越善衛教授退任記念パーティーの決算を下記のよ うに御報告致します。

会計報告

	-		4.	-
収	٨	0	꼬	1
71	/ \	V)	ш	

会	費	(485名)	7,275,000
記念	品代	(216名)	1,195,000
合	計		8,470,000

支出の部

		5,415,517
記念	品代	2,900,000
印刷	代	48,307
払込	手数料	56,690
雑	費	49,486
合	計	8,470,000

薬学科五期生同窓会

卒業ご30周年を迎え、平成2年6月9日午後5時よりお茶の水の銀座シアターで同期会を開催いたしました。桐沢、澤村先生をはじめ中村泉美先生、山本純子先生、福田先生を含め総勢60名で二次会まで全員が参加する盛況でした。(長谷川明記)

誘いの電話と、それに5年振りに皆様にお会いして、 ひととき昔の自分に戻るのも悪くないかな、と出席 いたしました。幸い東京は秋を思わせるような涼し さで、会場には、里見、中村(泉)、村越、山本、山 内の各先生及び桜薬会の高仲会長のご出席を頂き、 又54名の同期生の出席によりそれは盛大なクラス 会となりました。最初に今年退任なさいました村越



薬学科六期生同窓会

8月の卒業30周年記念クラス会とのことで、東京の暑さを思い出し、欠席しようかと迷いましたが、

先生が大変お元気なお姿でご挨拶に立たれ、次々に 立派になられた先輩の方々のお話が続きました。そ して最後に加納さんが、"こうした会で出席者が少な いのは実に淋しいことだと気が付きこの会のために 札幌から出かけてまいりました。"と話されました。



会は実になごやかで、しかもお互いになつかしく、 学生時代あまり話したことがなかった人ともお互い の近況や欠席なさった方々の事、昔の思い出等々、 楽しい話題であっという間の二時間でした。しかし まだ別れがたく二次会三次会は、数グループに分か れ席を変えて過ごしました。ですが一方前回のクラ ス会ではお元気だった阿部 (旧姓兼子) さんが、ガ ンで亡くなられたとの事うかがい驚きと有りし日の 姿が思い出され、ただご冥福をお祈りいたすばかり でした。30年前の卒業謝恩会で猪瀬先生が、「今日 限りで一生会えない友達もいるから出来るだけ沢山 の友達と話しておきなさい。」とおっしゃいました が、実に感慨深いお言葉だったと思います。

人生も大分折り返し点を過ぎてまいりますと、私 にとっての5年毎の同期会というのは、その時その 時の自分の姿を思い出す節目の様に思えます。特に 今回のクラス会の開催日は世界陸上選手権の初日で あり、しかもソ連にクーデターが起こり共産党解散 と歴史的な変革期であるということからも、きっと 記憶の残る会の一つになったのではないでしょう か。この会のために一年も前から準備して下さいま した金西、後藤、前田、藤本、松島、玉田さんには 本当に感謝いたします。と同時に今まで欠席なさっ ていた方々も次回にはぜひ出席なさって、過去に同 じ時間を共有した者同志として楽しく過ごしたいも のです。最後に先生方、及び同期生の方々のご健勝 とご繁栄をお祈りいたします。

(福田(旧姓牛山)敬子記)

山形県支部ニュース(総会開催までの経緯)

七年前、山形県薬学大会の特別講演に澤村先生を お願いしたおり、中村健先生同席の上第1回桜薬会 県支部総会を開催しました。初代支部長としては元 鶴岡市議、故佐藤重佐久氏(昭31卒)でした。その 後、支部長の指導宜しくまとまっておりましたが、 佐藤氏の突然の死去で、船頭のいなくなった船のよ うで、うろうろと何もせず時が過ぎてしまいました。 その間、薬学科も学部に昇格、校友会も工科会より

オール日大へと変わり、校友会に薬学として幹事を 送らなければならなくなりました。

そこで、昨年暮れに、久間木 (39卒)、北村 (40 卒) 林田 (45卒) 奥山 (53卒) が集まり、時期はあ まり良くなかったのですが、本県出身者または本県 勤務の方々を含めて約60名がおりますので、薬学部 より先生をお招きして第2回総会を開催しょうと話 がまとまりました。日程を平成3年1月26日(土) として、学校にお願いし、椛澤、山内両先生のご出 席の内定を取り出席者を募りましたが、なかなか返 事がこなくていらいらしました。そのうち、椛澤先 生に入試担当としての仕事が入り、急拠、中村泉美 先生に代理出席をお願いしたところ、快く出席して いただける様になりました。出席者も25名までに なり一安心。1月26日山形グランドホテルのロビー に先生方お二人のなつかしいお顔が揃いました。出 席者もちらほら入ってきて「ヤアヤア」のあいさつ、 昔話がすぐ始まる。同窓会名簿で名前を知っていて も初めてお目にかかる方もいれば、卒業式以来です ねの言葉も出てくるにぎやかさ。地元来賓の着席と ともに総会がはじまり、まず現在までの経緯と共に 幹事長としての言葉が久間木幹事からあり、続いて 山内先生より学校や各先生方の近況等を折り込んだ ご挨拶をいただきました。また、中村先生より、お 得意の「お謡」を出していただき、その声の張りの あることにビックリ、以前と変わらずのお声、とて もお若い姿を拝見させていただきました。両先生を 開んで一次会でおさまらず、二次会、三次会と引っ 張り廻され、さぞお疲れでしたでしょう。しかし、 出席者には楽しい一日になったようです。

本県においては、各卒業生の努力もあり、公立病 院薬局長、行政関係、開局勤務にと各分野において 頑張っています。また、県薬剤師会の理事として、 多数の方を送り出しています。この度は、村山地方 中心に、米沢から吉岡さん、長井から工藤さん等の 出席がありましたが、庄内勢の出席がなく残念でし た。是非、次回、時期をみて開催の折は出席いただ きまして、ご意見等お聞かせください。今回の総会 を出発点として充実した会作りをしていきたいと思 っております。おいそがしい折御遠方の処出席賜わ

りました両先生には深く感謝申し上げます。当日、 御多用の中出席、ご協力いただきました方々にお礼 申し上げます。また、現在名簿見直し作成中です。 出来上り次第お送りさせていただきます。まず報告 (久間木、北村 記)

なお、当日の写真は植物を撮らせては名人に頼み ましたが、スナップは迷人になり、おみせすること ができず残念です。

高知県支部便り

真夏の暑さを吹き飛ばすような軽快な鳴子の響く 「よさこい祭り」の練習でにぎわう8月3日の高知の 町で、第3回桜薬会高知県支部総会を行いました。

あいにくお忙しい方が多く支部会員16名中7名の 出席でしたが、高知県薬剤師会岡本会長にもお忙し い中ご出席頂き、総会終了後、県内の医療機関及び 薬局、薬店における諸問題(医薬分業の動向、医療 廃棄物等) についていろいろと意見が交わされまし た。



また、出席者の近況報告や支部会の活動方針(レ クリエーションなど) について楽しく中華料理を食 べながら長い時間を過ごしました。

職域支部: 東桜会便り

東桜会は早いもので発足以来、今年の10月で満2 年を迎えます。

日大薬学出身の病院、診療所勤務者は数多く居り ながら、なんら構のつながりが無いことから、有志 が発起人となり呼び掛けたところ、瞬くうちに100 名余りの替同をえて発足したことは、当初この欄を お借りして、紹介致しました。

そこで今回は、その後の活動状況を紹介致します。

第一回研修会平成元年10月7日(土)16時より

於:エーザイ別館会議室(参加人員49名) 桜薬会高仲会長挨拶「桜薬会の現状と今後の活動」 シンポジュウム 「医薬品情報の現状と問題点」 座長 奥田 政亮 (38卒)

病院の立場から 日大板橋病院

石井 久夫 (45卒)

・診療所の立場から 三菱自動車本社診療所

伊奈川愛美(61卒)

・メーカーの立場から エーザイ医薬情報室

・問屋の立場から 福神㈱社長室長

岩原 滋利

第二回研修会平成2年5月26日(土)16時より 於:エーザイ別館会議室(参加人員59名) 特別講演「日本大学薬学部の現況」

日大薬学部助教授 山内 盛

パネルディスカション

「調剤過誤の防止対策」

座長 大寿美 譲(45卒)

・慶応大学病院 三山 義博 (48 卒)

・公立昭和病院 田辺 浩二 (54 卒)

・福生病院 平井 幹廣(49卒) ・九段坂病院 柳沢由美子(62卒)

第三回研修会平成2年11月10日(土)16時

於:コーワ新薬大会議室(参加人員58名)

司会 江波戸寛治(48卒)

特別講演「漢方薬をめぐる最近の基礎的な話題」 ㈱ツムラ薬理研究所

所長代行 藤井 祐一(45卒)

第四回研修会平成3年5月11日(土)16時より

於:持田製薬㈱ルークホール(参加人員45名) 第一部 第二回東桜会 総会

議長 大寿美 譲(45卒)

- 会長挨拶
- 沢地 次雄 (34卒)
- ・会務報告、役員改選

第二部 研修会

特別講演「日大薬学部薬剤学教室の現況」

日大薬学部助教授 岡村 信

パネルディスカション

「薬品管理の現状と問題点」

座長 奥田 政亮 (38 卒)

東海大学付属東京病院 井上 忠夫(49卒)

至誠会第二病院 牧野 好倫(63卒)

労働省共済組合診療所 大沢 一栄 (35 卒)

(㈱スズケン物流課長 中川 志朗

以上列記した通り、東桜会は春、秋の年2回の研 修会を中心として活動しております。会員の構成 は、1人勤務の診療所から大規模病院、あるいは調剤 薬局など多種多様であるため、研修会のテーマも会 員の共通したものとして、春は薬剤業務の実務的な 面をシリーズ化したパネルディスカションとし、秋 は最近のトピックスを取り上げ特別講演を企画して まいりました。そしてこの間に、薬学科が学部に昇 格しました。卒業生として当然のことながら新校舎 や新キャンバス、あるいは研究室の変貌など興味深 く、気になるところです。そこで、薬学部からご無 理を承知で山内先生、次いで岡村先生にご出席を賜 わり学部の状況を講演して戴きました。さて、研修 会終了後にささやかながら懇親会を行っております が、文字通り同窓会でもあり、毎回大いに盛り上が っております。会員相互の親睦や他施設間のコミュ ニケーションなど、正に本会の目的であり、喜ばし く思っております。

今後とも、会員相互の声を基に、より良い会に発 展して行きたいと思います。

香川県支部発足する

瀬戸内特有の残暑が続く平成3年8月17日、午後6時より高松市内の「ホテル川六」において、桜薬会香川県支部が発会されました。会員16名中、9名が出席し会則の検討、役員の選出等、今後の活動に必要な事項をきめました。引き続き懇親会では、お忙しい中、大学から佐藤孝俊教授(企画担当)においで頂き、会員それぞれの想い出話に花が咲きました。また、在校生2名も加わり習志野に移った学部の雰囲気を興味深く聞き、さらに夜の街に出てからも話は尽きず、毎年この時期の再会を堅く誓って真夜中の解散となりました。

役員 支部 長 46 香粧 三枝 武博

副支部長 48 薬化 日詰 正清

幹 事 47 生化 木村 康男

監 事 52 薬化 岡田 知行

60 放射 高月 敏宏

顧 問 34 香粧 北村 泰宏

発会にあたり、山内先生、北村様には大変お世話 になりました。この紙面をおかりしてお礼申し上げ ます。 (三枝武博)

出席者名

特別会員 佐藤孝俊

正 会 員 34 北村泰宏

1北村泰宏 36斉藤清人

43鎌倉清治

44三枝(木村)和子

46三枝武博 47 木村康男

48日詰正清 54 藤

54藤沢 (早野) 敦子

61高月敏宏 (以上9名)



会 合 予 告

秋田県支部合同懇親会

本会報第16号に御案内しましたように、秋田市において第24回日本薬剤師会学術大会が開催されます。これに合わせて下記のとおり、この大会参加者の桜薬会の会員の皆様と、秋田県支部会会員の皆様方との合同懇親会を開催いたします。大学からは、澤村良二先生と中村健先生に御出席をいただく予定になっています。せっかくの機会でございますので、是非御参加くださいますように御案内申し上げます。

記

日 時 平成3年10月12日(土曜日) 午後7時から

場 所 杉のや 秋田市中通四丁目 1-15 TEL 0188-35-5111

会 費 秋田県支部会会員 ¥10,000円 (支部会費と通信費を含む)

県外来訪者 ¥8,000円

申込法 連絡担当 齋藤正俊(46年卒) 勤務先 秋田県警察本部鑑識課 科学捜査研究室 TEL 0188-63-1111 (内線) 2473

自 宅 010 秋田市楢山本町1-41 TEL 0188-32-2837

7月29日現在、秋田県支部会員約19名の出席希望 が受付られています。 (齊藤正俊 記)

埼玉県支部結成のお知らせ!

昭和31年に第1回生が世に出てから、本年で第36回生となり、昭和63年には、薬学科が薬学部に昇格しました。

これを機会に日大薬学部の発展に寄与すると共に 県内在住の者、勤務者の情報交換の場となる埼玉県 支部を、平成4年春の発足に向け準備中です。 奮って参加を乞う。

代表世話人 伏田英雄 (1期生)

(現 埼玉県薬剤師会専務理事)

なお問い合わせ先は一人人「Time」を終るVIJ9

〒340 草加市新里町 65-2 薬泉堂薬局 杉山義夫 (9期生) 町 0489-25-7957

日本大学 薬学卒後教育講座の御案内

次回以降の開講予定は下記の通りです。多数の参加をお待ちしています。

◎ 第16回 平成3年11月12日(木)

18:00~19:30

「歯槽膿漏と薬物療法」

日本大学歯学部

歯周学教室教授 村井 正大 氏

歯槽膿漏症は、口腔の中でみられる代表的疾患で 正式名は歯周病と呼ばれています。

本疾患は、歯と歯の間の歯肉(一般に歯ぐきと呼

ばれている)に初まった炎症が周囲の歯肉全体および歯を支えている歯槽骨に波及し、歯肉からの出血や膿の漏出、歯の動揺などを主な症状とする歯肉と歯槽骨におこる慢性疾患であります。

昔から歯槽膿漏症は治らない、どんな治療をして も最終的には歯が抜け落ちてしまうと考えられ、歳 だからとあきらめている人も多いようであります。

近年、その原因も明確になりつつあり、適切な治療を行うことにより治すことができるようになりました。その基本は歯に付着するプラーク(歯垢)をいかにコントロールするかであります、本講演では

このプラークをいかに抑制するかということを中心 に、歯槽膿漏症に使用される薬物につきお話したい と思っております。

◎ 第17回 平成4年1月16日(木)

18:00~19:30

「皮膚疾患の最近の治療

- 漢方治療も含めて - 」

日本大学医学部皮膚科学教室講師 駿河台日本大学病院皮膚科科長

馬場 俊一 氏

皮膚科診療において、アトピー性皮膚炎、慢性蕁麻疹、痤瘡、多発性円形脱毛症などは、日常頻繁に 遭遇する疾患ではあるが、慢性の疾患であり治療に 難渋することも多い。

これらの病因に関して、基礎医学の進歩を土台に、 精力的に研究がなされてきているが、解明にはまだ 遠い道程を残しているのが現状である。したがっ て、漢方治療をはじめ、種々の治療が試みられてい る。

PUVA療法、抗アレルギー剤、クリンダマイシン

ローション、凍結療法などは広く一般に行われるようになってきている。

これらの疾患の最近の知見や、話題の治療法、頻 用されている漢方エキス剤と、その治療成績などを 紹介する。

◎ 第18回 平成4年3月12日(木)

18:00~19:30

会 場: 日本大学会館 801号室

千代田区九段南4-8-24

TEL 03 - 3263 - 2271

JR中央線、営団有楽町線、都営新宿線

市ヶ谷駅下車 駅前

聴講料: 1,000円(当日申し受けます)

なお、聴講者には講義資料および修了証を差し上げます。

連絡先: 薬学部 四 0474-65-2111

又は、桜薬会事務室

TEL 0474-65-1478

〒274千葉県船橋市習志野台7-7-1

事務局だより

平成3年度 総会報告

日 時 平成3年7月12日(金) 17:00~18:00

場 所 日本大学会館8階会議室

事業報告

○会報発行

号 数: 桜薬会会報16号

発 行 日:平成3年2月12日

発 行 部 数:24ページ 7,200部

○会員名簿(昭和63年版)追補の発行 追補[3]:平成3年3月25日現在

本業生216名収載

○就職斡旋

求 人: 21件 前年比 - 4件

○地方支部会の開催 庶務報告の通り

〇学生会員活動補助 松港探拭時 (行車参加

桜薬祭補助(行事参加:第1回桜薬クイズ) 上位入賞者に「奨学金」贈呈

○卒後教育講座の開講

高仲会長及び笹野副会長(事業担当)が大学設置 の委員会に参画し、薬学部と共催で、5、7、9、11、 1、3の各月に開催した。

開催場所:日本大学会館会議室 受講者延363名

○日本大学創立100周年記念事業に参加 大学が行う記念募金に積極的に参加し、会員に募 金を呼びかけた。

割当額 3,500万円に対し、1,575.6万円 (45%)

事業計画案

- ○日本大学創立100周年記念募金事業に引続き参加 事業計画期間: ~平成4年5月31日 割当目標額 3,500万円の達成
- ○会報発行

年2回発行(8月、2月)を計画

- ○会員名簿追補(4)(昭和63年版)の発行 新卒業生を収載(平成4年3月25日現在)
- ○就職斡旋(求人・求職)
- ○地方支部の設立及び懇親会の開催

秋田県支部

埼玉県支部

○学生会員活動補助

就職懇談会補助

スポーツ大会補助 学園祭補助(第2回桜薬クイズ提供)

入学・卒業記念品贈呈

総合講義試験問題の解説書の編纂

○薬学卒後教育講座の共催

年間6回(奇数月第2木曜)の開催を薬学 部と共催する。

財務報告

平成2年度決算報告

平成2年4月1日~平成3年3月31日

〇 収入の部

	科目		予算	決 算	+ 34±
	17 日		」 异	伏 昇	増 減
入	会	金	2,080,000	1,340,000	-740,000
年	会	費	4,500,000	4,900,000	400,000
利		子	450,000	369,807	- 80,193
雑	収	入	100,000	军大本日	417,000
総	会懇親会	会費	k.k. TEL03-	243,000	阿加利斯
祝	儀	他	行商柏組泉東	185,000	発行所
就	任記念品	代料	以 以在公司	89,000	
前年	下 度 絲	巢 越	339,325	339,325	0
台	(III)	it .	7,469,325	7,466,132	- 3,193

○ 支出の部

科目	予 算	決 算	増 減
1.事 業 費	18 9 A	17.880	ii ii
1 会誌発行費		01.1 5	like the second
印刷費	1,400,000	790,422	-609,578
編 集 費	100,000	0	-100,000
発 送 費	900,000	455,328	-444,672
2国試対策事業費			do ata to
編集費	100,000	0	-100,000
3 活動補助費		子算案	F成3年5
卒後教育講座	300,000	260,000	0
支 部 等	200,000	160,000	-40,000
学生会員	700,000	201,500	-498,500
2.会 議 費		10 2	A 1
1 総 会 費	150,000	355,569	205,569
2 委員会費	250,000	152,600	-97,400
3 印 刷 費	200,000	320,804	120,804
4 発 送 費	450,000	507,804	57,804
3.事務局費		19 19	A 4 1/8
1管理費	100,000	147,675	47,675
2 人 件 費	1,200,000	1,005,060	-194,940
3 旅費交通費	200,000	88,920	-111,080
4 通 信 費	100,000	27,462	-72,538
4.そ の 他		1 数计	1 会計符
1 本部分担金	300,000	300,000	0
2 四学部分担金	100,000	100,000	0
3 名簿積立金	400,000	400,000	0
4 予 備 費	319,325	269,000	-50,325
祝儀費		169,000	1000年
記念品代料		100,000	支
5 基金積立金	000,003	880,000	880,000
6 次年度繰越金	0	1,003,988	1,003,988
学生補助		498,500	上総全
経常費繰越	000,088	505,488	2 委員会
合 計 00	7,469,325	7,466,132	-3,193

〇 前納会費積立

1	斗 目00,009	定期預金	件 数	- 14	年 会 費
平成	3年度分	4,288,000	(2,144	×	2,000)
平成	4年度分	3,200,000	(1,600	×	2,000)
平成	5年度分	2,150,000	(1,075	×	2,000)
平成	6年度分	1,532,000	(766	×	2,000)
平成	7年度分以降	606,000	(303	×	2,000)
合	計	11,776,000	(5,888	×	2,000)

〇 預 貯 金

科	目	前 年	本 年	増 減
基	金	17,380,000	18,260,000	880,000
利	子	1,149,103	2,263,933	1,114,830
名簿看	責立金	1,200,000	1,600,000	400,000
合	計	19,729,103	22,123,933	2,394,830

予算案

平成3年度予算案

平成3年4月1日~平成4年3月31日

〇 収入の部

科目	当	年 前	年増	減
入会	金 2,00	00,000 2,080	0,000 -80	,000
年 会	費 4,68	30,000 4,500	0,000 180	,000
利	子 40	00,000 450	0,000 -50	,000
雑収	入 30	00,000 100	0,000 200	,000
前年度繰	越 1,00	33,988	9,325 664	,663
合 ii	8,38	33,988 7,469	9,325 914	,663

○ 支出の部

科目	当年	前年	増 減
1.事 業 費	000.00	雪雪	
1 会誌発行費		Shr	
印刷費	1,480,000	1,400,000	80,000
編集費	100,000	100,000	0
発 送 費	900,000	900,000	0
2 活動補助費		黄一	
卒後教育講座	300,000	300,000	0
支 部 等	200,000	200,000	0
学生会員	1,200,000	800,000	400,000
2.会 議 費		金融級	
1 総 会 費	400,000	150,000	250,000
2 委員会費	250,000	250,000	0
3印刷費	300,000	200,000	100,000
4 発 送 費	500,000	450,000	50,000
3.事務局費			
1 管 理 費	150,000	100,000	50,000
2人件費	1,200,000	1,200,000	0
3 旅費交通費	200,000	200,000	0
4 通 信 費	100,000	100,000	0
4.そ の 他	1,000,08	S 1 (42)	
1 本部等分担金	400,000	400,000	0
2 名簿積立金	400,000	400,000	0
3 予 備 費	303,988	319,325	-15,337
合 計	8,383,988	7,469,325	914,663

役員承認

理事候補者 任期 3. 4. 1 ~ 5. 3. 31

平成3年卒

常任理事 中 嶋 順 一 理 事 佐々木 恵 富 田 麻 子 藤 澤 秀 樹

以上5名

編集後記

澤村先生が薬学部長に就任、薬学部1期生が卒論着 手と大学もすべてに前進しておりますが事務局では 桜薬会の前進記録を少しでも多くお知らせしたいと 思っておりますが、事業計画通りに会報17号をお届 けできるので一安心をしております。「南半球ムバ ラ便り」は山田節子さん(61生薬)からの私信です が、医療渇望の国ザンビア(アフリカ:首都ルサカ は東経28°南緯16°)で病院薬剤師として活躍し ている状況がかかれておりましたのでお母さまの了 解を得て掲載致しました。彼女の任期は2年間の予 定で第2便も編集中に受け取りました。連載の予定 です。次号を楽しみにして下さい。(事務局:山内)



発行日 平成3年9月30日

編集人 日本大学薬学部校友会事業委員会 発行人 日本大学桜薬会会長 高仲 正

印刷所 白洋印刷 k.k. III 03-3352-5631

発行所 〒 274 千葉県船橋市習志野台 7-7-1 日本大学薬学部内

> 電話 0474-65-1478 (直通) 振替口座 東京 2-50025

会 費 納 入 報 告

財務委員会

会費を納入していただきました会員の方々の名簿です。ご協力ありがとうございました。 誤りがございましたらお知らせ下さい。 (平成3年2月~3年8月31日)

会費納入者

平成2年度会費納入者

32種谷えんじ・山下登、33鍛冶智恵子、34加藤敬一・ 角田律·矢野哲比古、35小野村佐知子、36小林晶子· 島村周房、38泉沢晴子、39具志堅秀子、40岡太繁雄・ 小瀬駿介·小瀬俶江、42佐藤洋子·渡辺光、45太田正 昭、47寺島正美、48三森涼子・横田修、49青木三秀・ 加賀谷元、51片桐秀明、52種井政春、53山田カノ子、 55 加藤彰裕·須永毅·中嶋洋·増田明生、56 名内愛、 60 本橋正美、89 小野耕児·道谷成一 以上 33 名

平成2年~3年度会費納入者

41 篠木八重子、52 尾島友子、60 桧山浩一 以上 3名

平成2年~4年度会費納入者 44牛込陛阜、53細川みゆき

以上 2名

平成2年~6年度会費納入者

31 小野哲司・丸岡昭一、32 鹿岡和子・沢野俊彦・高仲 正、33金子年男・河島智・木村時子・金光継道・須藤 ひで子・住吉京子・中沢サキ子・西尾淳子・宮川素子、 34池田秀樹・岡田玉恵、35田中重俊・田中みち子・長 谷川明、36木村陸子·辻厚子·富田貞子·畑岸弥、37 秋葉弘子・上田民恵・黄川田幸正・小森谷守・永井雅 葉子・宮川孝・横山繁、38数馬修身・木村秘子・高野 静子・根本泰子・更田歌子・水村順子、39 栗原勝彦・ 河野淑・杉野三郎・杉山義夫・中野紘一、40 高野千代 子・高野幸雄・田中祐子・村上良子、41 井上晃弘・今 吉佑子・大河原明子・木村英二・越川節子・永石寿治、 43 熊本純之・栗山忠俊・竹林孝子・本多ひふみ・村山 暉之、44阿部妙子・阿部力・素村蕃彦・藤澤進、46鈴 木昌・原敏富、47阿部高彦・安藤清子・加賀妻俊子・ 河合真知子·高杉晶子、48井上節子·伊東秀子、49牛 込善彦·大嶋憲一郎·小林康泰·千原克夫、50熊田政 俊・清水恵子・永沼章・横山宗彦、51 小西泰子、52 宗 宮幸子・諸沢博美、53石井誠一・武内ひとみ、54上濱 洋子·尾熊丈実、55遠藤尚登·岡安千博、56大沢聖子· 高松丈嗣・星野久美子・山崎晃子、57岡田真郎・中村 悦子・滝口哲美、58島田弘子・渡辺智子、59赤池三恵 子・宇野隆司・木村博昭・武井英二郎・戸田玲子・中 村直美・林田恵美子・村田佳子・矢野彰子・渡辺実、60 浅水由紀子・牛込彰彦・小野久美子・岡本裕子・熊倉 里佳・杉中淳・武石裕子・辻下裕子・鶴岡美幸・殿村 英郎・東名優子・松永みゆき・森川芳恵・吉沼京子、61 谷地豊、89徳川雅一、90鈴木広行 以上122名

平成2年~11年度会費納入者 55服部泰子

以上 1名

平成3年度会費納入者

31 村松敬介、34木村清、36 坂本寿子、38 芝紀代子、 45一ノ瀬美枝子、49鈴木勝雄、50池松日出子、52長 瀬健市、54田辺浩二、57久保光正 以上 10名

平成3年~4年度会费納入 46野口幸一、57飯田恵子

以上 2名

平成3年~7年度会費納入者

31 井手常博·小山隆·渡部澄子、32 橋詰照義·平山薫。 松浦美代子、33江口弘、34井上清視·清水英雄·堀谷 肇・湯川祥子、36種井繁行、37峰島高子・深谷仁恵、 38 伊藤治憲・小山己知子、39 杉山豊子・瀬戸紀美江・ 辻桂子・米本富美代・山岡桂子、40磯部清幸、41遠藤 峯子・加藤寿美子、44三枝和子、45伊藤正規、46三 枝武博・渋谷正、47 靜谷隆吉・谷口明、49 石田正夫、 50玉木恵子、51高田暢子、52伊藤芳久・本多陽子・吉 田愛作、53木村美智子、54上田弥生、55安孫子正敏・ 角南八寿子、56木下文恵、57石毛久美子・佐々木朗 子・日原一郎、60 斎藤義夫、91 相原正行・青木孝子・ 秋山智枝・浅野和信・浅野謙司・阿部早苗・新井多恵 子・荒井操・五十嵐みつの・石井健一・石井政徳・石 橋友紀・泉硬介・市川邦治・一木利枝・石丸智一・伊 藤和美・稲垣竜也・井上学・今井利彦・今井美和・岩 田可奈恵・植竹美和・上野亨・上野宏幸・上原利枝子・ 植村恵美・宇喜多美和・薄井真理子・内尾勘一郎・海 上美紀・雲野ひろみ・遠藤勝彦・遠藤真理・生沼和美・ 大石雅彦・大久保州子・大杉優子・大塚順子・大村直 史・大桃英志・岡啓美・岡崎彩・尾川誠・小崎節子・小 澤清美・小野友理子・尾花奈美・海保敦・加々美淳・加 賀山陽子・加古彩由美・河西麻実・梶未知絵・勝田博 之・加藤祐子・香取和夫・金井千麻子・狩野圭子・上 家英之・亀田浩子・河内朗・川島弘子・川邊敦代・川 村尚久・岸本宗子・北村大志・木塚中美・木滑和枝・絹 笠実千留・金貞淑・久保八重子・窪田隆二・熊野聖子・ 黒川弘・郡司和恵・小浦柴保美・小柴珠美・小島昌子・ 小林啓三・小林信子・小林浩幸・小林幸夫・小山由美・ 小山佳恵・紺谷理恵・近藤久美子・郷原寿美子・極檀 幸次・後藤伊都子・後藤美香・坂本真紀・佐々木英之・ 佐々木恵・笹田博子・笹野勉・佐藤千晶・佐藤美和・佐 藤洋子・佐野勅美・佐野由美子・澤木紀公子・澤村淳・ 宍戸典子・七條佳子・渋谷眞由美・島田健一・志水利 裕・中沢武彦・中村美加・長屋美香子・中村修子・西 恵・白尾裕子・菅原恵・鈴木清明・鈴木久美子・鈴木 健二・鈴木富美子・関口悦子・染谷憲一・高原富弘・高

林寛子・高松葉子・高山力・滝口篤・武内信子・田中 秀弥・田中裕子・田畑和広・千葉晃・塚田久美子・塚 田剛・戸塚ゆ加里・富田麻子・豊田義雄・鳥飼久美子・ 土井雅代・内藤博敬・内藤督雄・中川恵子・中嶋順一・ 中根隆之・中野宏美・中村孝之・中山元次・永井猛・長 澤超子・永野義武・南雲恵子・並木邦仁・成沢靖一郎・ 難波昭雄・西家康晴・根門理絵・則本誠吾・箱守一樹・ 花本由紀・早川由紀・林きふみ・林祐二・原智浩・孕 石昌司・春山睦月・樋口勉・日原世津子・日比徹・日 比孝佳・桧山智子・平野和代・平野雅代・深澤仁・深 谷拓・福崎百合子・藤川真理・藤澤秀樹・藤巻陽子・古 川ひろみ・邊見有理・前田由布子・牧野道子・増田綾 乃・町田洋子・松田耕一郎・丸山篤志・丸山美佐子・三 木春野・宮川明子・宮下史子・宮地秀明・宮原優子・宮 元亜紀・宮本充・村松博子・持田猛・百々秀彦・森健 吏・森崎崇裕・森田陽・森脇雪路・矢代重雄・柳本佳 子・山内猛・山野史恵・劉素延・吉澤恵美子・吉邨晴 子・吉村美恵子・米持敏之 以上250名

入会金納入者

平成2年度入学者 野口憲一・渡辺雅樹

以上 2名

平成3年度入学者

相羽保寿・相川直樹・秋澤日向子・阿久津勝則・穴澤 香苗・今田吉宣・石井順子・池田正明・石川和秀・磯 部幸雄・石田欽子・梅本裕子・遠藤奈穂子・江添朋行・ 遠藤千晶・海老澤利江・榎本哲也・大城真陽・小倉誠 司・岡村優花・大崎順子・小野明子・折原一・岡本直 幸・大橋恵利子・岡部勳・大水麻理子・大熊千恵子・金 林智倫・川口素子・河合久美子・川畑るみ・香川真紀・ 川端茂夫・加藤賢二・菊島ちとせ・木ノ内仁・君島優 子・木下美千代・久住智治・工藤倫子・小林伸二・小 坂尚子・是枝知江・小村健太朗・小池理恵・小林恵子・ 小杉智宏・三枝香織・齊藤麻美・佐久間千晃・酒井庸 子・佐々木豪貴・坂元裕・佐藤亜紀・斎藤夕香・坂本 真理・澤田滋之・白川かおり・塩野英子・渋谷夕香里・ 島村宣江・白水敬子・下出由弥子・白鳥泰樹・塩出憲 仁・杉本親敏・鈴木誠一・杉浦雄治・須山由美子・杉 浦洋子・諏訪昌平・滝井紋・高田佳代子・田中里実・玉 田陽子・高橋美帆・谷口久美子・高仲真理子・田中裕 子・高橋功子・田中信政・高瀬尚一・多田健一・高瀬 貴子・土田繭美・塚本崇・土子真紀・辻直樹・土田高 野潤一・二宮豊・西本香苗・野澤充代・能重有里・服 部洋子・羽鳥正子・橋本正嗣・日高洋美・深井義久・藤

沢充志・深江瑞穂・福田めぐみ・布施京子・藤原徳仁・ 渕上智子・細谷義長・松尾みどり・松田哲男・幕内光 行・松塚美和・前澤洋子・丸山愛・宮坂知宏・三澤修・

村越善衛教授退任記念パーティー参加者および記念品代ご拠出者ご芳名

会田陽子、藍原恭子、相見光郎、青木豊美、青木正忠、 青木三秀、青柳貞吉、赤坂亨子、赤坂洋子、秋山美智 子、秋山鄉子、朝飛宏子、浅井秀樹、浅見覚、東厚子、 安部千明、綾部幸恵、荒木国興、新井朱美、新井信宏、 有吉歌子、安藤修一、安藤雅、安西偕二郎、居石泰寛、 飯鳥勝夫、飯塚進、五十嵐万秩子、池上文雄、池松日 出子、井熊一宏、伊澤透、石井一弘、石川将一、石川 節子、石川廣子、石川節子、石毛久美子、石塚起久子、 伊勢忠、泉沢晴子、板橋弘、一木利枝、一瀬美枝子、市 川美知子、市原+ ミ子、伊東秀子、伊藤進、伊藤弥生、 伊藤美智子、伊藤幸治、伊藤治憲、伊藤芳久、伊藤啓 子、稲垣栄、稲葉達也、稲村邦彦、稲村泰代、井口法 男、犬山彰子、伊原千秋、今村直人、今村与志子、岩 藤眞子、岩本圭史、岩田千鶴、岩崎仁美、植木倫子、上 田貴久子、上田忠司、上原早苗、上原圭子、右近ゆか り、牛島幸子、薄元優子、宇田川幸男、内倉和雄、内 田茂、宇津木良夫、内海史江、内海喩、宇野隆司、梅 沢ゆみ子、梅本準治、江黒さだ子、江口弘、江藤苑美、 遠藤豊、大林裕子、大西芳子、大屋敷孝雄、大坪邦夫、 大河原義重、大河原綾子、大塚桂子、大塚恵子、大賀 眞司、大出正人、大沢孝、大島直美、大島久、大平佳 奈子、大月浩、大林満江、及川裕香子、大野泰郎、大 野比奈子、大野牧子、大関康子、大嶋陽子、大谷恵一、 大久保善光、大山由布子、桜薬会、小川希久子、小川 義和、小川吉夫、小川昌保、小川裕子、小川尚武、小 川節子、緒方隆一、岡田眞、岡安孝明、岡安千博、岡 安映子、岡部佳郎、岡部憲子、岡村信、岡本貴志、岡 庭優子、小笠原襄二、奥山由美子、奥村和代、奥田由 美、興津新二、尾熊丈実、小佐野清司、小澤光、小沢 経子、尾崎幸紘、小田八保子、小野田学時、小野寺幸 雄、小野敏江、小野政幸、小野則夫、尾花正喜、大日 方綾子、大日方聡夫、海沼詠子、加賀谷元、加賀悦代、 蔭山幸江、粕谷豊、数馬修身、河西麻実、加藤英司、加 藤裕美、加藤宏一、加藤智由紀、加藤善久、香取悦、片 桐きよみ、片桐秀明、形浦和子、金井智恵子、金子春 治、金子勇、金子健、金西信次、金岡英治、加納誠、椛 澤洋三、鎌田邦栄、上村浩子、神石照幸、香山美子、苅 部英寿、川崎栄一、川西徹、川田嘉子、川上恭子、川 上忠重、川島直美、川島和代、河名万千子、河田柏、河 島智、黄川田幸正、菊池邦広、木澤靖夫、岸哲也、岸 みゆき、北中進、北中友子、北村牧子、木下礼児、木 下文恵、木滑和枝、木村由美子、木村佐知子、木村雄 吉、木村陸子、木村英二、君島正彬、清本昭夫、清本 和子、桐澤誠、九川文彦、草間貞、草間國子、工藤照 文、工藤祐江、國田五重、久保田政子、熊井俊夫、倉 橋正和、黒崎智恵、栗原義光、栗原勝彦、栗原道子、栗 林成和、栗山恵俊、桑畑善信、桑田信博、桑澤美恵子、 桑原幸人、郡家まつ子、小泉英男、小池勝也、小池昌 子、小池章裕、小池羲彦、洪姙植、香月佐智子、合木 淑子、神山広司、高野直代、小久保光昭、小嶌祥弘、小 鳥三千代、小清水敏昌、越川富比古、輿水温子、小柴 珠美、小菅時雄、越川節子、小城和之、小島荘明、後 藤博子、後藤弘子、後藤貴美代、後藤美香、狐塚識夫、 小西誠、小西太郎、小荷田孟史、小荷田史子、小林保、 小林晶子、小林静子、小林国喜、小林京子、小林正憲、 小林宏司、小林仁、小松貴美子、小松久恵子、小山隆、 小山美智子、小山征治、小山郁子、小山登志江、金光 継道、斉藤好廣、斉藤重野、斉藤清人、斉藤寛幸、斉 藤郁子、斉藤弘行、斉藤正子、斉藤正俊、斉藤義数、斉 藤章二、西周さとみ、道祖土勝彦、阪かおる、阪本一 彦、坂本親嗣、坂田達哉、坂田秀臣、坂田正樹、坂井 義則、坂口悦子、坂木壽子、桜井勇、桜井幸、佐々木 真澄、佐々木美和、佐々木実、笹野英雄、佐藤富喜子、 佐藤孝俊、佐藤美智枝、佐藤芳久、佐藤明浩、佐藤正、 佐藤妙子、里見政吉、皿島久子、佐野京子、澤村良二、 澤地次雄、澤木康平、三生製薬(株)、塩崎宜子、志田厚 生、四宮一総、篠崎俊行、柴田恭子、柴崎規子、芝紀 代子、島田弘子、島田恵美子、島峯望彦、島村忠昌、島 津憲一、嶋崎啓二、清水真生子、清水紘子、清水恵子、 清水悦子、清水一洋、清水公乃、下田勳、正田貞雄、庄 司尚人、白石弘二、神保恵美子、須賀保幸、須賀義則、 菅井昌子、菅原正雄、菅原成子、菅原栄、杉井篤、杉 中淳、杉野三郎、杉原硬、鈴江日出子、鈴木栄、鈴木 隆子、鈴木宏和、鈴木美佳、鈴木仁實、鈴木孝、鈴木 雅、鈴木明美、鈴木晃、鈴木康雄、鈴木寿郎、鈴木久 仁子、須永毅、須見哲久、角田吉弘、陶山順子、瀬尾 健一、関根忠行、関谷真一、関修、瀬端淑子、染谷和 晃、高木茂夫、高木豊彦、高木雄一、高沢秀子、高杉 晶子、高橋清記、高橋周七、高橋典子、高橋洋行、高 橋由美子、高橋崇之、高橋光枝、高橋浩二郎、高橋恭 子、高畠亨、高仲正、高野静子、高松丈嗣、高松良子、 高松田鶴子、高本和雄、高山京子、高柳一成、達谷窟 滋子、滝戸道夫、滝戸澄子、滝沢明祐、田口実、田窪 康雄、武井明、武井侑代、武内克彦、武田幸代、武永 眞嗣、竹林孝子、竹内雅子、竹内二三雄、田島雅道、橘 正道、立花禮子、立山弥七、立川真理子、田中義朗、田 中里佳、田中俊一、田中香代子、種井政春、谷口明、田 中淳子、田畑京子、田辺義雄、玉川佳江、玉田輝巳、田 村孝夫、田村悦子、丹野資弘、千葉貴司、千葉瑞恵、地 曳利雄、千原克夫、塚田房、塚原英明、柘植奈知子、辻 守康、辻川照之、津田百合子、椿啓介、㈱ツムラ、鶴 田陽子、寺田淳、寺嶋智津子、寺西啓容、寺島正美、寺 内貴美子、遠山典之、富樫真奈美、徳江敏夫、徳竹伯 夫、土志田和正、戸田雅恵、戸塚淳逸、殿村英郎、伴 野和夫、富田晴美、富田貞子、外山美代子、豊田明、豊 田亮三、鳥山正晴、中井温子、中越昭裕、中嶋洋、中

嶋美由紀、中野紘一、中野孝志、中村泉美、中村健、中 村直美、中村和也、中村紀久子、中村秀夫、中村幹子、 中山謙二、長島邦夫、長林義隆、長沼邑子、長山幸太 郎、永松國助、永喜美和子、波間美佐子、成川秀隆、成 川玲子、鳴滝哈爾子、新村宗敏、新村節子、二井内悦 子、西山寿美子、西村友則、西村実、西川辰恵、丹羽 政彦、丹羽百合子、根本勝男、野口朝光、野口豊、野 口百代、野沢克巳、野中栄夫、野本義雄、橋本正成、橋 本滋子、蓮川康夫、長谷川明、長谷川稔、長谷川豊秋、 長谷川光男、長谷川紀子、長谷川弓子、畑英一、畑中 耕一、畠山一幸、服部泰子、服部由、花岡明雄、塙剛 央、浜田順一、濱島房則、濱野恵美子、林富雄、林佳 子、早川紀代子、早瀬衛以子、速水浩泉、原島良一、原 田隆子、原田知枝、春山尚美、日向一正、疋田典子、久 田真理子、肥田興造、桧山浩一、平原好文、広田晃一、 廣川節男、弘田玲、弘中賢二、深谷典子、福井利文、福 内照子、福島栄、福田英臣、福田由美子、福野剛樹、更 田歌子、伏見恵子、藤井祐一、藤井靖子、藤原充雄、藤 本康雄、藤本恵子、藤森浩行、藤谷憲一、古江輝紀、古 川揚子、古屋育雄、別当有通、別当あけみ、星野律子、 細川真澄、堀穣、堀尾千恵子、堀岡正義、本多玲子、前 田敏晴、前田郁代、牧野宏、牧村瑞恵、牧村紀子、增 田英昭、增永信夫、増渕美子、間瀬泉、待井弘江、町 田実、松井一秀、松井孝子、松浦利光、松川律子、松 沢茂樹、松嶋幸江、松永直樹、松波紀子、松原茂、松 村貴久司、松本邦昭、松本宏之、真野徹、丸山恵子、万 年琢也、萬羽洋子、三井隆志、三浦孝司、三浦恵吾、三 浦久美子、三笠由紀子、三木久美子、三崎弘、水野京 子、水野直子、水村順子、三股早代子、水谷喜美、三 原京子、三村光明、三宅宗晴、宮尾利政、宮川孝、宮 川素子、宮田順子、宮本千世子、三輪高市、村岡佳子、 村上元、村木一恵、村瀬雄也、村山琮明、室屋英幸、毛 利正、元起恵理子、本橋重康、森喜美、森ひで子、森 田哲生、森田竜也、森田洋子、守屋芳子、守屋勝弘、矢 花文代、矢島康男、矢作恵、矢花秀雄、安川憲、安田 熙枝、山上和夫、山北信広、山口しのぶ、山口久、山 口良夫、山口忠洋、山崎良介、山崎智美、山下由巳、山 下清和、山田洋、山田幸次、山田カノ子、山田英輝、山 田洋子、山中健三、山内盛、山本純子、山本諭史、山 本節子、山本晃、鎗田一子、米田圭助、横川宗雄、吉 岡晴美、吉川日出雄、吉川和基、吉崎泰人、吉田美彦、 吉田哲朗、吉田栄子、吉田陽子、吉永久美子、吉野道 子、吉見根子、横山亮一、力石和美、若松佳子、若松 伸明、若林恵子、和気成、渡邉瑞男、渡辺俊男、渡辺 正孝、渡辺京子、渡辺加奈子、渡邊和子、渡辺和男、渡 辺茂和、渡辺実、 (順不同)